

長寿命化から事業マネジまで

日本水工設計 技術本部 技術企画部 アセットマネジメント推進課副課長 門田 文仁

管路施設に限らず、下水道事業のマネジメントを行ううえで、建設・維持管理情報等のデータベース化は不可欠です。下水道施設のマネジメントプロセスとしては、第一に下水道台帳管理システムに登録されている管理情報をベースに下水道施設のライフサイクルをシミュレーションし、想定される長期修繕・改築の事業量を把握するステージがあります。次いで、予算等の条件から事業実施の可能性について確認を行い、必要に応じて平準化等実施時期の調整を行います。実施時期の調整に当たっては、一般的に一定のリスクを保有しながら財政部局との事業量調整を行っていきます。このリスク評価では、わかりやすく定量的な指標を用いて、相対的な評価が可能なように行います。事業量調整後は、長期財政見通しについてシミュレーションを行い、長期財政の収支バランスについて最適化を行います。従来の下水道台帳管理システムでは、これら一連のマネジメントが実施可能な機能を実装していませんでした。

日本水工設計では、平成22年度にアセットマネジメントを想定したマネジメント支援ツールであるAssetMan[®]（AssetMan[®]は、日本水工設計株式会社の登録商標です。）を開発し、福岡地区水道企業団様で導入いただいております。現在は、国内主要都市に対して下水道事業を対象としたAssetMan[®]導入業務を実施しております。また、AssetMan[®]では、下水道長寿命化計画策定を目的とした機能についても改良に着手しており、下水道施設の長寿命化計画策定から下水道事業のマネジメントまでをトータルサポートしていきます。詳細は、当社HP（<http://www.n-suiko.co.jp/>）をご参照ください。

